

# 令和5年度 神戸市 英語教育改善プラン

## 目標

授業中、75%以上、児童が英語で言語活動を行っている割合：50%以上  
「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の把握：80%

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

【2021と2022年の比較】  
①授業中、50%以上、児童が英語で言語活動を行っている割合  
88.7%→99.4%  
②小学校教師の英語力の状況（CEFR B2レベル以上を取得している教師の割合：1.1%→4.4%

#### 未だ改善が必要な点

【2022年の結果】  
①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している：95.1%  
②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公表している：36.8%  
③「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を把握している：73.6%

### 2. 分析

①全ての外国語授業をALTと協同授業を実施することにより、英語でのやり取り等の言語活動の時間の割合が増えた。  
②質問対象者が異なるため、単純比較はできないが、2022年度からの教科担任制の導入により、英語力のある教師が、外国語を担当していることが考えられる。

① かつて作成した「CAN-DOリスト」の改訂が進んでいないと推測される。  
② ③ 「CAN-DOリスト」形式による改訂が進んでいないため、学習到達目標を児童や保護者と共有することや達成状況の把握が進んでいないと考えられる。

### 3. 施策・事業

①全ての外国語活動・外国語科授業（低学年は年間5時間）においてALTと協同授業実施。教員とALTとの合同研修を開催し、言語活動の中心となるSmall Talkの実施率をさらに上げるために、チームティーチングについて研修を行う。  
②ALTを講師とする研修講座「先生のための英会話教室」を年間2回開催。発音などを習得するクラスとテーマを決めて英会話を行う英会話クラスを設定し、英語力向上を図る。一定の英語力を有する小学校教師の新規採用数については、検討を重ねる。

①神戸市版「CAN-DOリスト」（2022年）を作成したものをモデルにし、各学校で自校化しながら改訂を推進する。外国語教育担当者会で、具体的な自校化の仕方を説明し、提出を求める。  
②③「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の具体的な児童との共有の仕方や達成状況の把握の仕方を研修で伝えるとともに、オンライン上の情報共有も進める。

# 令和 5 年度 神戸市 英語教育改善プラン

## 目標

英語担当教員の英語使用状況（発話の50%以上）：75%以上  
生徒の英語による言語活動時間の割合（50%以上）：75%以上

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

【2021と2022年の比較】  
①求められる英語力を有する生徒の割合：  
48.1%→51.1%  
【2022年の比較】  
②生徒が1人1台端末を活用した授業を実施した学校の割合：98.8%

#### 未だ改善が必要な点

【2022年の結果】  
①学習到達目標をCAN-DOリスト形式で設定：52.4%  
②英語教育に関して、小学校との連携を実施した：37.8%  
③求められる英語力を有する英語担当教員の割合：38.0%  
④英語担当教員の英語使用状況：38.2%  
⑤生徒の英語による言語活動時間の割合：46.7%

### 2. 分析

- ①小学校において外国語教育の充実により、英語力の素地が養われたため。  
②1人1台が全市に配備され、活用頻度が多くなった。
- ①かつて作成した「CAN-DOリスト」の改訂が進んでいないとともに、神戸市版CAN-DOリスト(2022年作成)の周知が不十分。  
②コロナ禍以前に比べ小中合同研修等の開催ができず、連携の機会が少なくなった。  
③外部検定試験の受験等に取り組む教員数が少ないことにより、自身の英語力の把握が難しいと推測される。  
④⑤新しい教科書の内容に関して、言語活動よりも日本語による内容理解に時間がかったためと推測される。

### 3. 施策・事業

- ①中学校1年生対象に小学校での英語学習に関するアンケート等を実施し、小中接続に関する分析を行う。  
②学習者用デジタル教科書を使って、個々の音読練習に活用する。また、端末を使用した音読課題機能やe-ポータルサイト内のソフトなどの積極的な活用を促進する。
- ①原則として、各校が神戸市版CAN-DOリストを活用することとし、各校HPに掲載することについて周知する。  
②小中合同研修会を開催し、互いの情報交換の場を設ける。  
③先導的なオンライン研修実証研究事業への参加の促進や、外部検定試験の助成制度等を積極的に周知する。  
④クラスルームイングリッシュやALTとのやりとりを活用した授業研究を推進する。  
⑤神戸市独自のスピーキングチャレンジを各学期1回以上実施するなど、言語活動の時間の確保に取り組む。

# 令和5年度 神戸市 英語教育改善プラン

## 目標

パフォーマンステスト（スピーキング・ライティング両方）実施率: 70%以上

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

【2018年と2022年比較】  
 ①生徒の授業における英語による言語活動時間の割合: 53.1%→77.3%  
 ②求められる英語力を有する英語担当教員の割合: 53.3%→90.3%  
 ③学習到達目標の設定: 44.4%→100%  
 【2022年度結果】  
 ④B1レベル15.5%

#### 未だ改善が必要な点

【2022年の結果】  
 ①求められる英語力を有する生徒の割合: 39.6%  
 ②英語担当教員の授業における英語使用状況: 68.2%  
 ③パフォーマンステスト（スピーキング・ライティング両方）実施状況: 54.5%

### 2. 分析

①コミュニケーション英語の授業でペアでのやり取り活動などが推進されている。  
 ②自身の英語力を外部試験の結果等で把握している教員の増加。  
 ③2022年度からの新学習指導要領の導入に向けて全ての学校が設定した。  
 ④国際科生徒の英語力は全員B1以上

①学校間や学科間の英語力に開きがあり、毎年の数値にもバラつきがある。外部試験以外で生徒の英語力を把握することに課題がある。  
 ②学科間の数値に開きがあり、専門学科の授業における割合が低い。  
 ③効果的な実施方法の周知が十分でなかったと推測される。

### 3. 施策・事業

- 各学科の特色に沿った到達目標を設定  
 普通科・総合学科: A2レベル50%以上〔SSH: 基本的なサイエンス英語の習得〕  
 工業科: 基本的な工業英語の習得  
 商業科: 基本的な商業英語の習得  
 国際科: B1レベル以上100%
- 指導と評価の一体化の推進  
 研修を通じて、CAN-DOリストの活用及びパフォーマンステストの効果的実施を中心とした授業改善を進め、授業内における言語活動の充実を図る。  
 1～3年目研修重点: 英語で授業を行う  
 全体: 個別最適と協働的な学びの推進
- 発信力・対話力を高める取組の推進  
 複数のALTと対話する神戸市の国際人育成プログラムを活用し、各科の特色に合わせたプログラムを通じて、思考力や発信力を高める。  
 姉妹都市や姉妹校等との対面、オンラインの国際交流を通じて、国際的視野を広げ、発信力や対話力を高める。